



pH暴落 – 一晩で池の緩衝が尽きるとき

h2koi.com · 2026-08-04

要点

- 池では酸が絶えず発生しています。鯉の呼吸で出る CO_2 、餌の残りや落ち葉の分解、そしてろ過（硝化）そのもの。
- KHが残っているあいだ、pHはほとんど動きません。安定したpHは遅れて出る指標であり、安全の裏づけにはなりません。
- 尽きた瞬間に落ちます。多くは夜間です。水草や藻類が光合成をやめて呼吸に回り、 CO_2 が一日で最も高くなる時間帯からです。
- 数時間放置された暴落は錦鯉にとって致命的です。pHを直接追わず、KHを少しずつ戻します。

発生源	しくみ	効き方
鯉の呼吸	排出された CO_2 が水に溶けて炭酸になる	24時間止まらない。放養量と水温に比例
餌の残り・排泄物	有機物の分解で有機酸が生じる	給餌量の増える夏に加速
落ち葉・底の堆積物	沈んだ有機物が分解し続ける	秋以降、じわじわ効く
ろ過（硝化）	アンモニアを亜硝酸に変える段階でアルカリ度を消費する（亜硝酸→硝酸では消費しない）	ろ過が効いている池ほど確実に減る
雨水・雪解け水	KHのほとんどない水が入り、緩衝を薄める	長雨のあとに一時的に

数時間で決まります

pH暴落は、放置された時間の長さがそのまま被害になります。夕方は普段どおりだった池で、翌朝に複数尾を失う — この事故はそういうかたちで起きます。鼻上げを見た時点では、原因究明よりも先に、KHとpHの測定とエアレーションの強化を行ってください。

H2Koiがすること、しないこと

すること：産業用グレードのセンサーで池の水質を継続的に測り、傾きが悪い方向に向かったときに早期警告を出します。KHは0~20 dKHの範囲で算出値として表示します。夜間のpHの振れ幅も、そのまま記録に残ります。

しないこと：滴定による分析ではありません。GHは扱いません。病気や寄生虫の判定もしません。そして、何かを防ぐ装置でもありません。気づくまでの時間を前に倒すだけです。